

ジャパンパック 量産設備を本格稼働 主力の「Nパック」倍増へ

ジャパンパック（滑川市北野、長田宏泰社長）は四月から、機能性段ボール容器の製造をほぼ自動化する新たな量産設備を本格稼働させた。主力製品である「Nパック」の新規受注も決まり、生産量の二倍増を目指す。

「Nパック」は段ボールの内部に防水性の袋を張った液体用容器で、金属缶やポリタンクに代わり、軽くて輸送効率が高い上、折りたたみが可能で保管スペースをとらない。

袋と段ボールは使用後に分離して産業廃棄物とリサイクルに別々に回すことが可能で、環境対策に取り組む企業から注文が増えている。

新設備は、約三千万円を投じ、材料の供給や袋のセットなど、手作業が必要だった部分をほぼ自動化した。自社独自の特注機で、昨年夏に導入してから改良を加えてきた。

現在はディーゼルエンジンの大手メーカーや接着剤メーカーからの受注で、月産七―八万個を生産している。ことしに入り新たなディーゼルエンジンメーカーとの契約も決まり、半年後には生産量を二倍に増やしたい考え。

ジャパンパック

量産設備を本格稼働

主力の「Nパック」倍増へ

ジャパンパック（滑川市北野、長田宏泰社長）は四月から、機能性段ボール容器の製造をほぼ自動化する新たな量産設備を本格稼働させた。主力製品である「Nパック」の新規受注も決まり、生産量の二倍増を目指す。

「Nパック」は段ボールの内部に防水性の袋を張った液体用容器で、金属缶やポリタンクに代わり、軽くて輸送効率が高い上、折りたたみが可能で保管スペースをとらない。

袋と段ボールは使用後に分離して産業廃棄物とリサイクルに別々に回すことが可能で、環境対策に取り組む企業からの注文が増えている。

新設備は、約三千万円を投じ、材料の供給や袋のセットなど、手作業が必要だった部分をほぼ自動化した。自社独自の特注機で、昨年夏に導入してから改良を加えてきた。

現在はディーゼルエンジンの大手メーカーや接着剤メーカーからの受注で、月産七―八万個を生産している。ことしに入り新たなディーゼルエンジンメーカーとの契約も決まり、半年後には生産量を二倍に増やしたい考え。

ジャパンパックが本格稼働させた機能性段ボール容器の量産設備

